

普及活動情勢報告（令和４年１２月分）

中央東農業振興センター 嶺北農業改良普及所

GAP のレベルアップを目指して ～高知県 GAP 第三者確認制度現地調査～



書類を確認する調査員

JA 高知県れいほく園芸部は令和元年度に高知県 GAP 第三者確認の団体登録をうけ、今年度の農家数は昨年より 5 戸増加し 91 戸となりました。11 月 29 日には、登録更新のための現地調査が農家ほ場 10 か所、出荷場及び JA 事務局で行われました。

普及所は団体事務局である JA を支援し日々の GAP 指導を続けるとともに、調査の準備をしました。調査では、農家から「点検シートを記入するたびにできていないことや直すべきことが見つかり見直しに役立っている」という声が聞かれ、GAP の取組が日々の改善に繋がっていることが確認できました。

今後も普及所は、GAP の取組の向上を目指し、JA と連携して活動を続けます。

大豊町の伝統的な料理を後世に伝えよう

～大豊学園で郷土料理伝承講習会を開催～



上手にできるかな？
特産品の調理を学ぶ

大豊地区農漁村女性グループ研究会は、12 月 13 日に大豊学園の 5 年生 11 名を対象に、郷土料理伝承講習会を開催し、「こんちん」や「ぜんまいの油炒め」等の郷土料理の調理実習を行いました。

普及所は、講習会の企画立案や郷土料理のレシピ資料作成等支援しました。

講習会に参加した児童からは、「郷土料理を作るのは初めて。研究会の人達が教えてくれたので上手に作れた」、「ぜんまいが大豊町の特産品だったとは知らなかった」といった声が聴かれるなど、大豊町の郷土料理や伝統作物への興味が深まった様子でした。

今後も普及所は、大豊地区農漁村女性グループ研究会の食文化の伝承活動を支援していきます。

病害被害の低減と収量向上に向けて ～米ナス部会反省会～



熱心に説明を聞く参加者

JA 高知県れいほく園芸部米ナス部会は、12 月 14 日に反省会を開催し、部会員 11 名が参加しました。

JA からは、GAP 第三者確認の指摘事項や農作業安全、令和 4 年度の出荷販売状況などについて説明がありました。

普及所からは、新たに発生が確認されたフザリウム立枯病の対策と密植試験の結果などについて説明しました。

参加者からは、「薬剤防除は芽かきの前にするのがいいか？」、「(フザリウム立枯病の)他産地の被害状況は？」など多くの質問が出されました。

今後も普及所は、病害被害の低減と収量の向上に向けて、部会、JA と連携した取組を続けていきます。

より省力的な栽培技術へ！ ～土佐甘とう反省会～



整枝方法を説明する普及職員

JA 高知県れいほく園芸部土佐甘とう部会は 12 月 20 日にれいほく営農経済センターで反省会を開催し、部会員 8 名が参加しました。

普及所からは、今年度の振り返りや GAP、SAWACHI 等についての情報を提供しました。特に生理障害果（尻ぐされ果）対策に向けた整枝などの栽培管理については先進地視察で得られた情報とともに詳しく説明しました。

生産者からは、「労力がない中で、どのように取り組んでいくか」などの声があがり、活発に意見交換が行われました。

普及所は今回の反省会で出された意見をふまえ、作業効率の向上や増収に向けた取組を支援していきます。